

# こいた 小板まきばの里通信 Vol 11

～個性的な形の木の実を探してみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

## ■キャンプ場周辺で秋の植物を探索しよう！



## ■里山の自然観察 ～個性的な形の木の実を探してみよう～

お盆を過ぎると山里には一足早く秋の気配が漂ってきて、真っ先に紅葉するヤマザクラやマユミの木は少しずつ葉の色が変わり始めます。このころになるといろいろな木々の実が目立つようになってきます。その中には一風変わった実をつけるものも。勾玉を1つ～3つひっつけたような形をしているのはツノハシバミ。ヤマガラという小鳥の大好物です。丸いてまりを糸でぶら下げたような実をつけているのはツリバナ。熟すとてまりが割れて中から鮮やかなオレンジ色の種が飛び出していきます。機雷のような突起が付いた丸い実を上向きにつけているのはヤマボウシ。赤く熟した実はかつて子供たちのおやつでした。一度見たら忘れられない個性的な姿をした木の実を探してみましょ。